2022 年度　学校関係者評価結果

逗子開成中学校・高等学校　海洋教育委員会

１．2022 年度　海洋教育アンケート結果（生徒：中２、中３、高１）回答数 349
２．2022 年度　海洋教育アンケート結果（保護者：中２、中３、高１）回答数 263

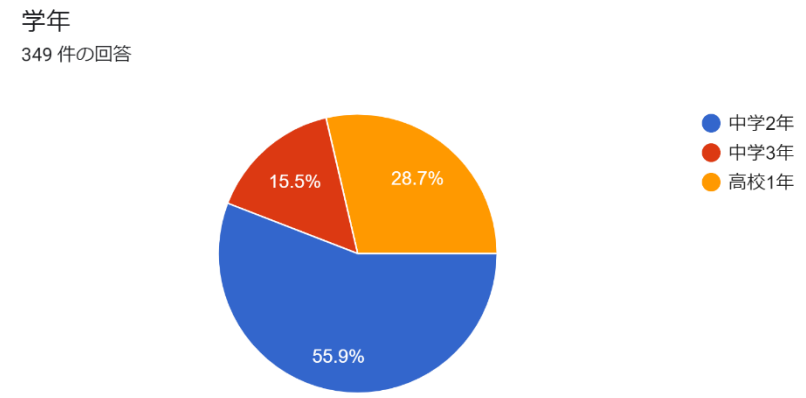
※アンケート実施期間（2023 年 4 月下旬～2023 年 5 月中旬）

３．2022 年度　海洋人間学評価報告

１．2022 年度　海洋教育アンケート結果（生徒：中２，中３、高１）

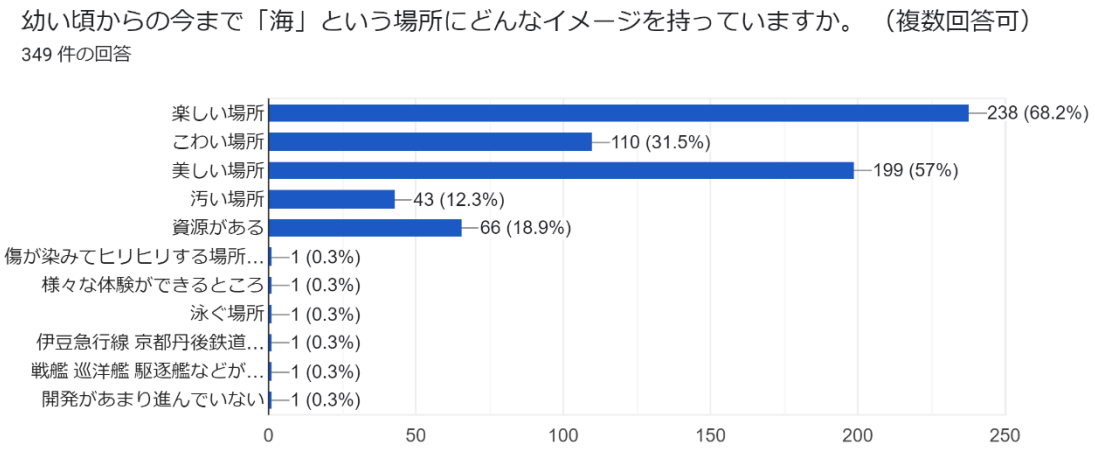
１－１．学年別回答内訳

・学年が上がるにつれて回答率の低下がみられる。



１－２．海に対するイメージ

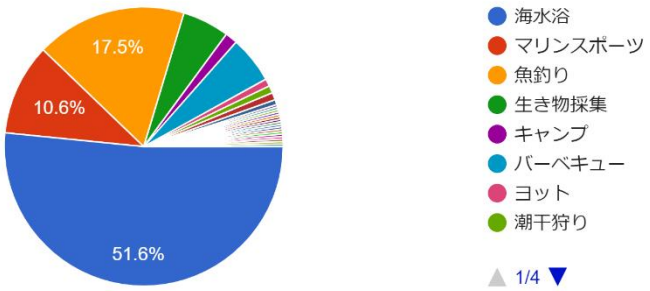
・「楽しい」、「美しい」といった肯定的な印象を持っている生徒が多い。



１－３．海についての思い出

・海水浴が半数を占めており、最も一般的なアクティビティだと分かる。

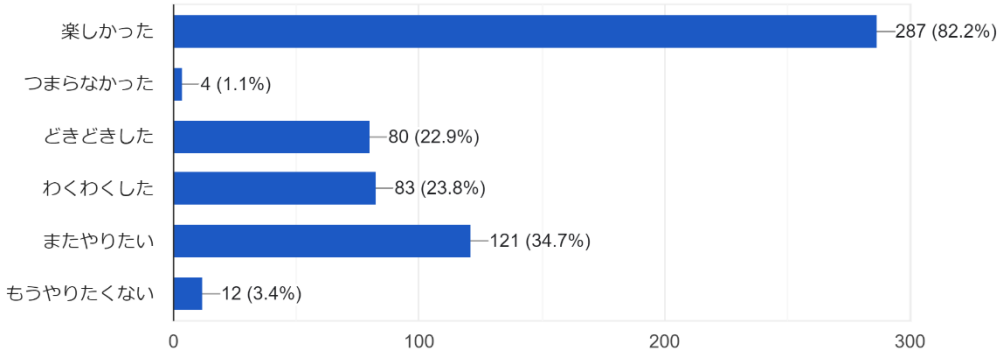
学校外で、最も印象の残る海に関する思い出を１つあげてください。
349 件の回答



１－４．ヨット実習の感想

・肯定的な感想が 8 割を占めている。

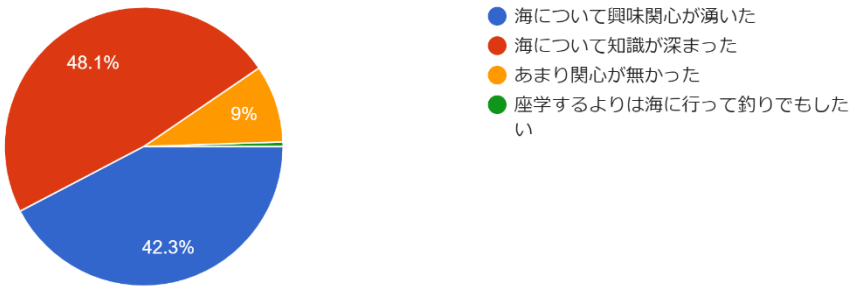
（中２，中３，高１）OPヨット実習の感想を次の中から選んでください。（複数回答可）
349 件の回答



１－５．海洋に関する学習の感想

・約 8 割の生徒で海洋に関する興味、関心が向上した。

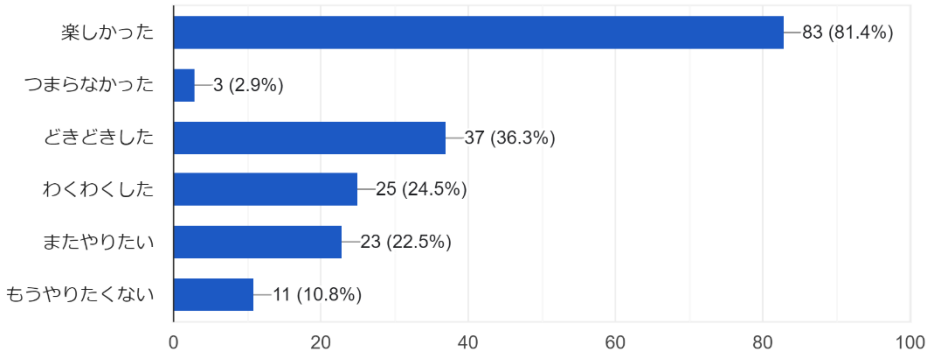
（中３，高１）海洋に関する学習の感想を次の中から１つ選んでください。
189 件の回答



１－６．遠泳についての感想

・8 割の生徒が肯定的な感想を持っており、「どきどきした」という感想に表されているように冒険心も刺激された行事であったことがわかる。

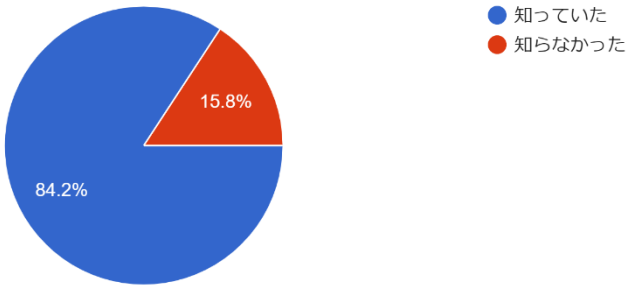
（高１のみ）遠泳実習の感想を次の中から選んでください。（複数回答可）
102 件の回答



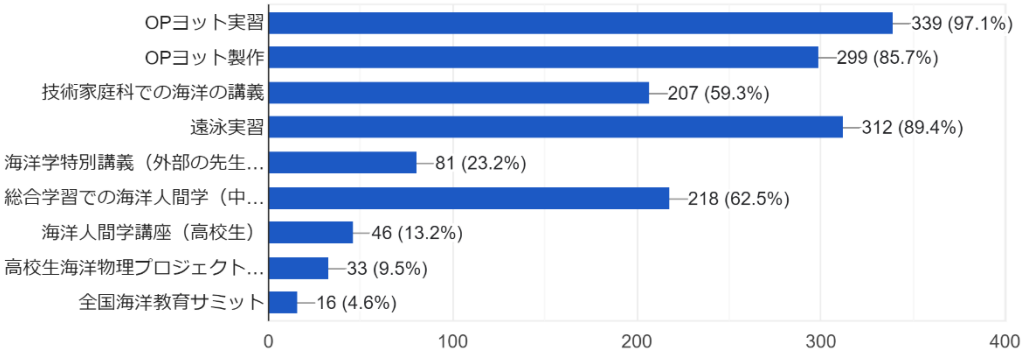
１－７．海洋教育に対する入学以前の関心

・8 割以上の生徒が入学以前より本校の海洋教育について知っていたことが表されている。また、中学において取り組んでいる内容についても概ね把握しており、3 割程度の生徒については将来の進路を考えるきっかけにもなっている。

逗子開成には、海洋教育があることを中学入学前から知っていましたか。
349 件の回答



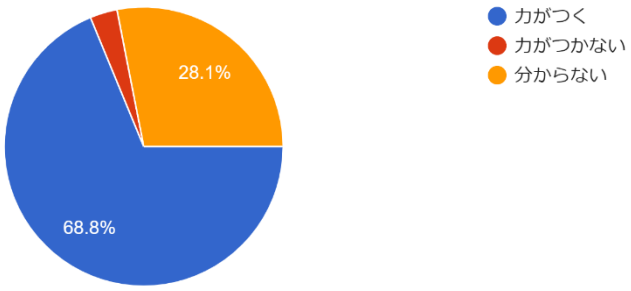
逗子開成の海洋教育の学習で知っているものを選...体験していなくても構いません。（複数回答可）
349 件の回答



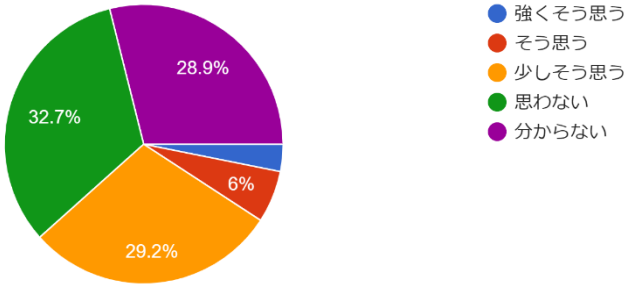
１－８. 海洋教育について学び実感

・７割の生徒が自分にとってプラスの効果があったと感じている。

逗子開成の海についての学びから、自分には何か力がつくと思いますか。
349 件の回答



将来、海に関係する仕事に就きたい、海に関係する研究がしたいと思いますか。
349 件の回答



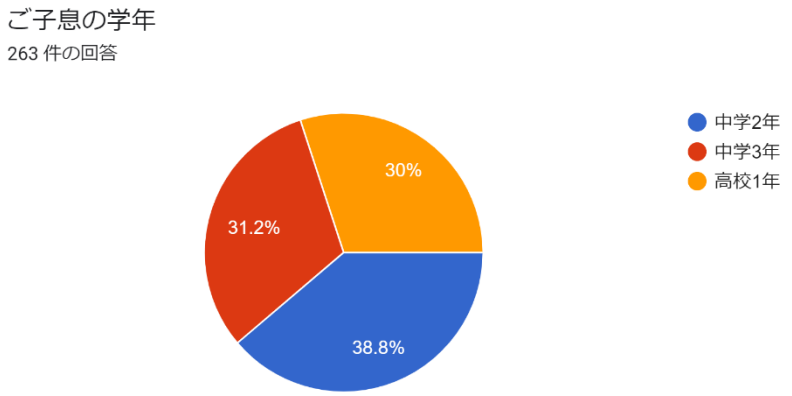
1－９． あなたにとって海はどのような存在ですか。

・多くの生徒が「楽しい場所」、「美しい場所」といった肯定的な印象を持つと同時に「危険な場所」、「災害を起こす場所」といった記述も見られた。同時に海に触れる機会が多く物理的な距離も近い為、日常の場所、身近な場所という記述も見られた。

２．2022 年度　海洋教育アンケート結果（保護者：中２、中３、高１）

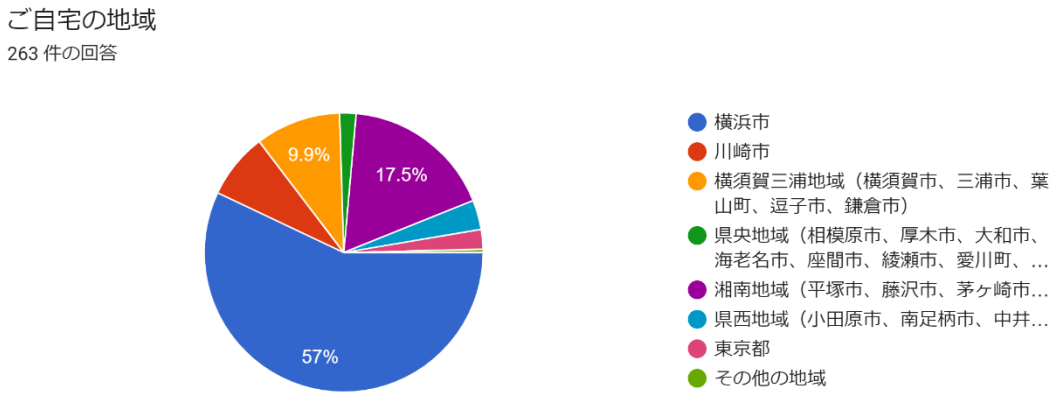
２－１．学年別割合

・各学年とも 90 名程度の保護者がアンケートに協力している。この数字は学年のおよそ三分の一にあたり、ほぼ例年並みの回答率である。



２－２．居住地別割合

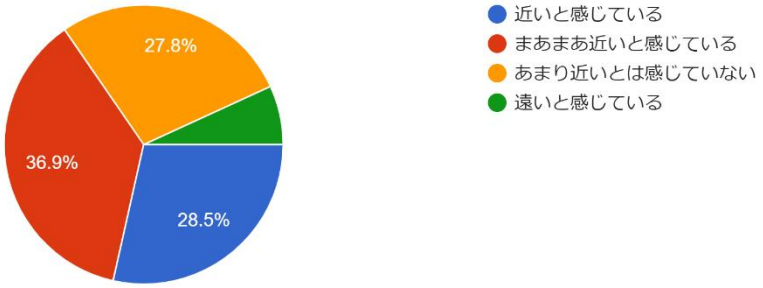
・有効回答中、居住地による回答率の偏りは見られない。



２－３．海との距離感

・アンケート２の結果から県東部（横浜・川崎等）居住者が多く、東京湾、相模湾とも距離が近く、海を身近に感じている方が多いことがわかる。

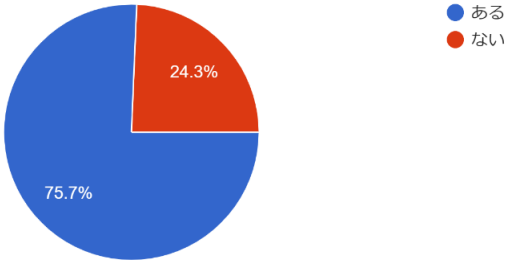
ご自宅は海に近いと感じていらっしゃいますか。
263 件の回答



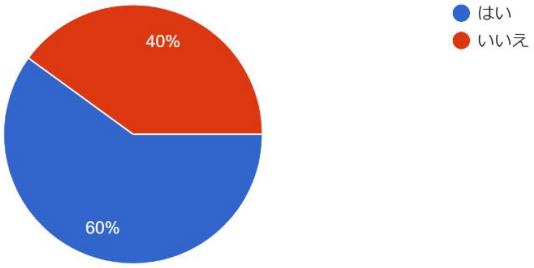
２－４．ヨット実習、遠泳実習の見学

・回答者中 6～7 割がヨットや遠泳を見学したことがあることが分かる。ヨット実習への注目度が高いことがわかる。※遠泳実習については高１の保護者のみの回答

これまでに学校のOPヨット実習を見学されたことはありますか。
263 件の回答

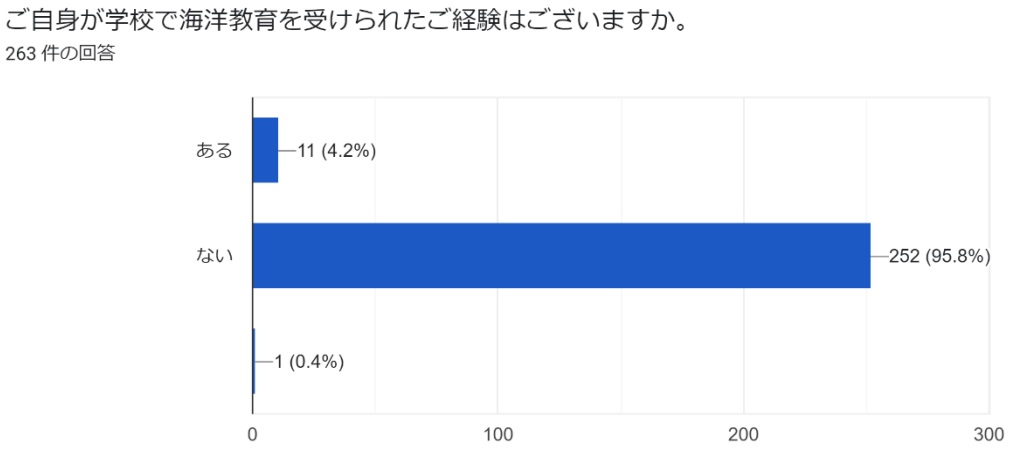


遠泳実習を見学されましたか。（高１の保護者のみ）
100 件の回答



２－５．保護者自身の海洋教育の経験

・9 割の方が自身では海洋教育の経験がないことが表れている。



２－６．本校の海洋教育が、ご子息にどのような成長をもたらすとお考えですか。

・大別して次の４つのことについて、回答されている方が多く見られました。

①自然との付き合い方について成長を促す。

＜キーワード＞ 環境保護、環境問題、自然に対する畏敬の念、海との共生、海の豊かさと怖さ、命の大切さ など

②自立や協働を促す。

＜キーワード＞ 秩序やチームワーク、自分との戦い、決断力（その場で考える力）、コミュニケーション など

③心身の成長を促す。

＜キーワード＞ チャレンジ精神、危険予知、柔軟な思考力、健康、バーチャルでない世界を体感する、大らかな気 持ち など

④視野を広げることができるようになる。

＜キーワード＞ 海に関する知識、ものの見方、将来の進路の選択肢が広がる、想像力、創造力 など

以下、回答を何点か抜粋しました。

○　自然の偉大さや厳しさを知り、小さな己を知り、それでも真摯に臨み続けることの大切さを知ることができると思います。また、その小さな力同士が影響し作用し合うことで大きな事を成し遂げられると、実感を持って学んでくれると期待しています。（中 2 保護者）

○　自然や環境問題に対する意識の向上 経験から得られる内面の成長や広い視野 海洋に関わる仕事への興味等の成長を期待しています（中 2 保護者）

○　ヨット実習で、実際にヨットに乗り、さらには自分で操縦することで、波、風の向きや強さを読み（感じ）、帆の扱い方などを経験することは、まさに自分と向き合うことだと感じます。 上手に風にのってスムーズに進むことができた事で、楽しさと同時に、自信もついたようです。（中 3 保護者）

○　ヨット、遠泳を通して仲間と協力してやり遂げること。そのために自分がどんな働きかけ、声掛けが必要か考えるようになる。 遠泳では、ただ完泳するのではなく、このイベントのためにどれだけの人が準備をし、協力してくれたかを知ることができ感謝の気持ち深めることができる。（高 1 保護者）

○　机の上では体験できない、自然を相手にすることの楽しさとその反対にある危険や恐怖。 それを乗り越える方法を考えるなかで、情報収集の方法や、仲間とのつながりの大切さを学んでくれていると感じています。サバイヴするために必要な思考を、海洋教育を通して学んで欲しいと考えています。（中 2 保護者）

○　自ら判断して行動する責任感とチームワークやコミュニケーション能力を鍛え、子供が自分の可能性を広げると思っています。海に関する様々な活動や体験を通して、目標をやり遂げた達成感を、今後の人生で役立てて欲しい。（中 2 保護者）

３．2022 年度　海洋人間学評価報告

海洋人間学「海の土曜講座を企画する」について

国立極地研究所 国際極域・地球環境研究推進センター 特任研究員
丹羽淑博

2020 年度に東京大学・海洋教育センターのスタッフ（当時）として、逗子開成中学１年生の海洋人間学「海に関する土曜講座を企画する」の授業の立ち上げに関わる機会を得ました。本授業は、生徒が自らの関心に応じて海を題材とする探求テーマを設定し、情報を収集・整理し、土曜講座の企画書にまとめ、発表する体験を通じて、探求活動の基本的な流れを実践・理解させるとともに、同時に海への関心・理解を深めるものです。「探究活動」と「海洋教育」の要素を結びつけたユニークな取り組みとなっています。授業の一連の流れには、目の前にある海を探求の場として捉えるためのフィールドワーク、探求テーマを設定するためのグループワーク、図書館やインターネットから信頼できる情報を収集する方法、情報を整理しまとめる方法などがシステマチックに組み入れられており、全国的に参考されうる非常に有用な実践になっています。

今回は３回目の授業実践になりますが、毎年改良が重ねられています。今年は発表会に合わせて広告ポスターを作成することにより、企画の内容と目的を可視化し効果的に伝えるためのプレゼンテーション能力の向上が図られました。作成されたポスターを見ると、海と直接的に関わる理科や社会科につながるテーマのものだけでなく、これまで以上に英語や美術などに関連した自由な発想をいかした多様なテーマが提案されたことがわかります。また、理科や社会科に関わる企画も単に海についての知識を得るものだけにとどまらず、海洋保護や海洋開発のアイデアを創出するためのワークショップも多く提案されています。さらに、ポスターに書かれている文言や図柄からも、サンゴへの意識を変えようとか、地球の海を変えませんか？と言った、海の問題を自分ごとに捉え能動的に関わっていこうとする姿勢が読み取れます。このようにカリキュラムの改良により、これまで以上に生徒の自主的な学びへの姿や海への意識変容に大きな効果が認められました。今後の課題としては、生徒が設定したテーマに応じて海に関わっている地元の方々や専門家にインタビューするなど外部人材をうまく活用していけるとよいでしょう（先生方のアレンジが大変だと思いますが）。また、全国の海洋教育の発展のために、この優れた授業実践を広く発信していただければと思います。

最後に、このような貴重な授業実践に関わる機会を与えてくださった逗子開成中学校・高等学校の皆様方に厚く御礼を申し上げます。